

春秋彩

Shunjusai

vol.63
熊本県立大学広報誌

2025
Autumn



CONTENTS

学長あいさつ 2

特集

食育を通して 地域と人材を耕す 3
おいしい、楽しい企画が続々

研究活動紹介 7

大学の動き 8

後援会だより 9

生き生き元気種 10

おすすめの一冊・未来基金の報告 11

熊本県立大学アーカイブズ 12

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

 **熊本県立大学**
Prefectural University of Kumamoto

酷暑と豪雨が 問いかけるもの



熊本県立大学長 堤 裕昭
Tsutsumi Hiroaki

特 集

食育を通して 地域と人材を耕す

お | い | し | い | 楽 | し | い | 企 | 画 | が | 続 | 々

野菜不足や欠食など食事のバランスが乱れ、立ちくらみやだるさ、疲れ、便秘などの体調不良に。県立大学生を対象とした「大学生の食生活と健康維持」に関する調査で浮かび上がった食生活の問題点です。大学生の食生活改善は、古くて新しい課題でもあります。

県立大学では2006年に「食育の日」を創設。「食育」を通して、学生たちに健全な食生活と自己管理を促すとともに、地域の食資源を見直す取

組みを続けています。地元の野菜や魚介類などを積極的に活用した学食メニューを提供する「食育の日」を定期的に開催。学生主体で結成された「たべラボ」を中心に、「一品持ち寄り弁当の日」や魚のさばき方講座など楽しい催しを繰り広げています。

熊本の食と健康に関する人材育成や研究拠点として、長年の実績を誇る県立大学ならではの多彩な活動を紹介します。

今年の夏の酷暑には、多くの方が閉口されたのではないのでしょうか。さらに、8月上旬の戻り梅雨のような大雨では、家屋の浸水や土砂崩れ、農地の水没など、さまざまな被害が発生しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

この出来事を通じて、私自身、長年の疑問が1つ解けました。なぜ毎年九州各地で梅雨末期になると集中豪雨や洪水が繰り返し発生するのかということです。令和2年7月に熊本県南地域を襲った豪雨も、まだ記憶に新しいところです。7月になると西日本の気温や沿岸の海水温が上昇し、大量の水蒸気が発生します。その結果、6月までとは比較にならない規模の積乱雲が発達します。雲は水蒸気の塊です。それが夜間になると冷されて結露し、大量の雨粒となって地上に降ってきます。集中豪雨が夜に発生しやすいのはそのためです。避難

が難しい時間帯に災害が起きる要因の一つと言えるでしょう。

私たちが地球上でエネルギーを使い過ぎていることが影響しているのでしょうか。メカニズムのすべてが明らかになっているわけではありませんが、気候の温暖化が進んでいることは誰もが実感していることでしょう。今年の暑さは一過性の出来事ではなく、これからも続く変化の一部と考えざるを得ません。このような気候の変化に適応しつつ、私たちはこれまでと同様の日常を維持していく必要があります。そのために大学という学びの場で大切なのは、「気象」や「気候変動」について学ぶこと、あるいは学び直すことではないでしょうか。世の中は常に変化しています。その中で生きていくためには、その時々に必要な学びを続けること（教養を身につけること）が求められます。





手づくりの味をシェア みんなの笑顔で さらにおいしく「一品持ち寄り弁当の日」

学生たちが手作りの料理を持ち寄る「一品持ち寄り弁当の日」。県立大学では3年前から、学生の自主組織「たべラボ」を中心に定期的に取り組んでいます。2001年から全国に広まった「弁当の日」がルーツ。お弁当ではなく、一品持ち寄りにした理由は、「自分にできることを少しでもやってみてほしい」という思いからです。

毎回テーマを設けており、今回は「一番好きな料理」。ピーマンの肉詰めやジャーマンポテトなど自慢の一品を手にした学生たちが教室に集まり、次々と机に料理を広げました。祖母にニンニク醤油の漬け方を習ったという環境共生学部1年の黒田真央さんは、鶏肉とインゲンのニンニク醤油炒め物を持参。小学生のころからお菓子作り

をしているという環境共生学部1年の小串清夏(さやか)さんは、大好きなレモンのパウンドケーキをふるまいました。参加者は自分の料理の解説や作った理由を発表し、みんなでシェアして楽しんでいました。

開催日はSNS等で告知。この日は16人が参加しましたが、通りがかりの学生も友人に誘われて飛び入り参加。料理を持ってきていない人も自由に参加でき、和気あいあい。「見た目にもこだわった料理があり、私も作ってみたいになりました」「家庭の味に触れられる貴重な経験」「いろいろ味わうことができました。みんなの笑顔があると、さらにおいしく感じます」といった感想も。学年や学科、国籍もさまざまな学生たちが集まり、にぎやかなランチタイムとなりました。

「一品持ち寄り弁当の日」の学生コメント

梅から手づくりの梅寒天

梅ゼリーの予定だったけど、暑さで溶けることを考慮して梅寒天に。ハートや花の型を使い、見た目もかわいくなりました。梅シロップも自作。余った梅はジャムにしました。

横山 美咲 さん
総管理学科1年

お弁当の思い出の一品

ミートボールは、母がよく作って弁当に入れてくれていた思い出の一品です。たべラボの活動を通して、普段関わりの少ない人とも交流できるのが楽しい。

松本 悠希 さん
総管理学科1年

韓国の母の味を初めて

キンパは、小さいころから母が作ってくれました。日本に来て作ったのは初めてです。のり巻きの中の具はマグロ、卵焼き、ニンジン、ハム、たくわん。韓国のお米と日本の食材を使ったけど、とても大変でした

チョ・ヨンジェさん
環境共生学部3年



学生主体の「たべラボ」 地元食材を生かした「食育の日」

素材やメニューも学生が企画・考案

学食で毎月1回、学生たちが考案したメニューを提供する「食育の日」。食材の調達や広報のためのチラシ、ポスターの制作などを全て学生主体のグループ「たべラボ」が行っています。

今回は規格外野菜の認知拡大を目的に活動している学生グループ「Salvage」とのコラボで開催。「VegeレスキューDay」のキャッチフレーズで、規格外のナスを使ったスパイスカレーを提供しました。メニューを考案した総管理学科3年の傘莉子(からかざりこ)さんは「規格外のナスをたくさん使っています。拍子木切りや半月切りなど、切り方を変えることで、食感が楽しめるようにしました。また、味の濃いカレーに加えることや、めんつゆ・鰹節・いりごまなどで風味を豊かにすることで、苦手な方でも食べられるよう工夫しました。ナスが苦手な人にもおいしく食べてもらいたい」と話してくれました。ドライ野菜と塩もみしたナスのマリネ、ナスとツナの和え物も添えられ、

混ぜて食べても、別々に食べてもナスをたっぷり味わえるよう工夫されています。

学食では昼食時間前から学生たちが訪れ、スパイスカレーを食べていました。「量が多く、おいしい」「外国の料理のような味がする」「混ぜて食べるということが新鮮だった」「規格外野菜に触れるきっかけになった」と感想を話してくれました。

学食内のステージでは、規格外野菜を仕入れた農家や、メニュー解説の動画が流されました。農家の取材、発表資料の動画制作なども学生が行っています。「食育というだけでなく、主体性を育む活動としても取り組んでもらい、様々な事へ挑戦するきっかけを作ってほしい」と環境共生学部の田尻美千子准教授は期待を込めます。

「食育の日」には、学外から来る人も多いそうです。ぜひ学食に足を運び、学生たちの努力と情熱がたっぷり詰まったメニューをご賞味ください。

規格外の野菜、花きに注目!

学生ボランティア団体「SalVage」

学生ボランティア団体「SalVage」は、規格外野菜の認知拡大と地域創生を目的に2020年に結成。主な活動は、規格外野菜の販売や農家への取材、「食育の日」のメニュー開発など。規格外の花きにも目を向け、押し花やシーリングスタンプを作成するワークショップを行っています。



メンバーの文学部英語英米文学科3年、竹下真由さんは「学内外で交流が深まるのが楽しい。学生ならではのアイデアを自分の手で実現することができ、貴重な経験」と笑顔で話しました。



食を通した高大連携の絆 熊本農業の高校生たちと和気あいあいメニュー考案

食を通した熊本県立大学と熊本農業高校(熊農)との連携は2007(平成19)年にスタート。熊農で育てた野菜を使って、県立大の学食で提供する活動を続けています。

11月の県立大である「食育の日」に向け、「たべラボ」の大学生6人が9月中旬、熊本市南区の熊農を訪ね、高校生6人とメニューを考えました。

今回の材料は、熊農で育てているキャベツ、白菜、ブロッコリー、ホウレン草、ミニ大根、青パパイヤです。大学生と高校生は4人ずつ3グループに分かれ、秋にふさわしいメニューを出し合いました。

「スープにトマトを入れるのが好き」と高校生が言うと、「トマトは切らずに入れられるよう、ミニトマトがいいね」と大学生が応じていました。

大学生が「青パパイヤはどんな味だろう」と尋ねると、高校生が「くせがないので、炒め物に入れるとシャキシャキした感じが生かせると思います」と提案。和気あいあいとした雰囲気でした。

グループごとの発表では、「キャベツをたっぷり使っ

たメンチカツ」「白菜とホウレン草のナムル」「トマトやダイコン、ベーコンが入った野菜たっぷりポトフ」などのメニューが披露されました。

今後、熊農で調理して試食し、改良した後、11月28日の「食育の日」で提供する予定です。

参加した熊農生活科3年の緒方椿姫(つばき)さんは「大学生と意見交換して、貴重な経験になりました。自分の意見を言うことの大切さを感じました。熊農の野菜を使ったメニューができるのが楽しみです」。環境共生学部環境共生学科4年の村山琉奈(るうな)さんは「高校生と一緒に考え、共有することによって新たなアイデアが生まれました。魅力的なメニューになりそうです」と話しました。

この後、「たべラボ」のメンバーたちはほ場に行き、環境共生学部の田尻美千子准教授が苗を渡し、熊農で栽培されている青パパイヤを見学しました。青パパイヤは次々と実をつけており、大きいもので15センチほどに育っていました。

人吉球磨の郷土料理を発信 ヒトくまLUTC(ルトウック)

「たべラボ」とともに「食育の日」のメニューを考案している団体「ヒトくまLUTC(ルトウック)」は、学生15人が人吉球磨地域の郷土料理を伝承する活動に取り組んでいます。今年、つぼん汁やアユの甘露煮など郷土料理のカルタを作成し、地元の小学校などに贈りました。総合管理学部総合管理学科4年、島津菜々さんは「人吉市出身ですが、知らなかった料理もあり、改めて地域の



魅力に気づきました」。同3年の小山桃加さんは「今後は郷土料理にまつわるストーリーを絵本などにして伝えていきたい」と話しました。

方言を記述する

日本語および琉球語諸方言の記述的な研究をしています。日本中で共通語の影響が強くなっていて、昔ながらの方言が無くなっていく中で、少しでも記録を残しておきたいという気持ちも強いですし、言語の多様性というものを感じることができて楽しいというのも研究していくうえでのモチベーションになっています。

小国町方言の研究

コロナ禍での中断はありましたが、数年前から小国町に調査に行っています。小国町というのは熊本県の東北部、地図で見ると角のように突き出ているところです。山形県の小国町と区別するために「肥後小国」と呼ばれることもあるそうです。江戸時代には熊本藩の支配下にあり、今でも熊本県の一部ですが、地理的に大分県に囲まれています。

小国町方言に見られる興味深い特徴を1つご紹介します。



調査で使う録音機材



方言調査の様子

ると、「3つの可能形」というのがあります。共通語であれば「動詞+(ら)れる」と言うようなところで、「動詞+きる」と「動詞+られる」の2つを使い分ける方言が九州にはありますが、小国町方言には3つあるというわけです。そのため、共通語では「食べ(ら)れない」(不可能の意)としか言わないような場合でも、小国町方言では状況によって以下の3つが区別して使用されます。

「(食材がかわいそうで...)食べきらん」
「(食材が腐っているので...)食べられん」
「(今はお腹がいっぱいで...)食べれれん」

方言に見る人の交流

実はこの「3つの可能形」は、大分県の一部の方言ではすでに報告がなされているものです。言語学的に珍しい特徴が方言間で共通している場合、それが偶然の一致である確率が低く、過去に人の交流があったことを示唆するというのが言語学的な考え方です。そして、小国町には方言以外にも大分県側との交流が盛んであったことを示す証拠があります。小国町では「鰯胃」(たらおさ:鰯のエラと胃を干した物、方言名だとオサダラ)を食べる習慣があり、大分県の西部(日田市、玖珠町、九重町)と共通していることがその一例と言えるでしょう。

このように、方言というのは過去の人の移動や交流の痕跡も示してくれることもあるため、歴史や文化といった視点からも価値があるものなのです。共通語化が進めば進むほどそのような痕跡を探すことが難しくなりそうですので、少しでも調査が可能うちに伝統的な方言の記述をしておきたいと思っています。

プロフィール

神戸大学大学院文化科学研究科(博士課程)修了
博士(文学)
2014年より本学勤務



鰯胃(たらおさ)の煮物

半導体学部(仮称)の設置構想を発表

2025年9月22日に熊本県庁と合同記者会見を開催し、新たに第4の学部として「半導体学部(仮称)」を設置構想中であることを発表しました。半導体学部(仮称)では、半導体に関する専門知識と技術ならびに半導体に関わる様々な

分野についての横断的な知識を修得し、実践的な教育と研究を通じて、地域社会および国際社会の発展に貢献する人材を養成することとしています。

【設置構想(概要)】

学部学科名 半導体学部半導体学科(仮称)
開 設 時 期 2027年4月1日
入 学 定 員 60人／学年
施 設 新施設(学部棟)を月出キャンパス内に整備
※開設3年目(2029年度)



▶半導体学部(仮称) ホームページ



県庁での記者会見(左から木村 熊本県知事、黒田 理事長、堤 学長)

設置構想中 | ※設置計画は予定であり、内容に変更が生じることがあります。

オンライン特別講座「球磨川流域圏 バーチャルキャンパス」を 好評配信中！

令和2年7月豪雨による災害からの創造的復興をめざし、球磨川流域圏の文化、歴史、環境をテーマにしたオンライン特別講座「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」も今年で5年目となり、最後の開講になります。

今回は、学内外の10人の多彩な講師陣による12講座をYouTubeにより配信中です。ぜひWEBサイト「地域ラブラトリー」からお申込みください。

＊配信期間 2025年10月1日(水)～2026年1月31日(土)
＊受 講 料 無料

YouTubeで
視聴できます

オンライン特別講座

**球磨川流域圏
バーチャルキャンパス**

KUMA RIVER BASIN VIRTUAL CAMPUS

詳細・申し込みは
こちら

お問合せ！熊本県立大学 地域・研究連携センター
TEL 096-321-6612(平日9:00～16:00)
E-mail puk-tenkei@pu-kumamoto.ac.jp

文学部英語英米文学科の 学生3名が「第77回 日米学生会議in熊本」に参加

2025年8月7日から13日まで、「第77回日米学生会議in熊本」が開催され、英語英米文学科4年前田さつきさん、同2年浦田実侑さん、嶋田健大さんが参加しました。

3名は、本年2月から熊本サイト企画委員として同会議の企画・運営に携わり、7月12日に行われた日米学生会議オンライン事前学習会では、本学の堤裕昭学長の基調講演時の司会や熊本紹介のプレゼンを行うなど活躍を見せました。

日米両学生72名の熊本滞在中は、参加者とともに様々な体験を行ったほか、国際関係や社会課題について一緒に議論するなど、交流を深めました。



日米学生会議参加学生、熊本県内の高校・大学生との記念撮影

EXPO2025大阪・関西万博に出展

2025年日本国際博覧会(略称「大阪・関西万博」)において、6月9日～11日に環境共生学部環境資源学専攻 松添研究室(植物生産学)がTEAM EXPOパビリオンで「日本の原風景、棚田で活躍する球体除草ロボット」を展示しました。



子供に水田除草ロボの説明をする松添教授

また、9月19日～23日には本学が代表機関である流域治水を核とした復興を起点とする持続社会 地域共創拠点がギャラリーWESTでの企画展示「2030年ネイチャーポジティブの実現に向けて」内での展示を行いました。



パネルと雨庭の模型を展示(ギャラリーWESTにて)

地域を彩る、学生たちの温かい食卓 ～ 子ども食堂開店 ～

熊本県立大学環境共生学部の学生有志10名が、地域の子どものために素敵なプレゼントを贈りました。舞台は、大学近くの空き家。夏休みに子ども食堂として生まれ変わったこの場所で、心温まる昼食が提供されました。

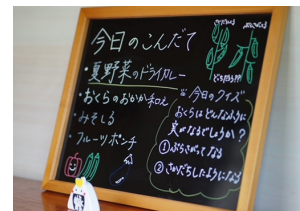
リーダーを務めるのは、食健康環境学専攻4年の田端郁実さん。彼女自身も子ども食堂でのボランティア経験があり、その経験を活かして、夏休みの間、子どもたちに栄養満点な昼食を届けたいという思いがありました。

メニューは、子どもたちの成長を考えた栄養バランスの取れたもの。野菜が苦手な子にも美味しく食べてもらえるよう、味付けにも工夫を凝らしました。さらに、子どもたちにとって忘れられない思い出となるよう、デザートやバイキング形式での食事会など、楽しい企画も盛りだくさん。

「子どもたちが喜んでくれて、本当に嬉しかった」と田端さん。きれいに完食してくれた子、おかわりをたくさんしてくれた子、その笑顔が何よりの原動力になったと言います。

学生たちの優しさと創意工夫が詰まった子ども食堂。子どもたちの心と体だけでなく、地域全体を温かくする、素敵な取り組みとなりました。

後援会は、この取組みをキャンパス活動支援事業で助成しています。



後援会だより

《就職対策事業》

- 就職対策講座(公務員試験対策)の助成、資格取得及び講座受講等助成 他
- 就職活動(インターンシップ等)経費(交通費及び宿泊費)の一部助成、各学部・学科・専攻で行うキャリア形成支援事業助成、在学生就職アドバイザー配置支援、TOEIC®IP学内試験への実施支援、就職・進学用写真代助成、保護者用就職ガイドブック作成配付 他

《学生活動支援事業》

- サークル活動費助成、白垂祭・PUKリンピック開催経費助成、インカレ出場助成、全国大会等出場助成 他
- キャンパス活動支援、学生用カラーコピー機の設置、コピーカード配布・販売、食育支援(ベジ活キャンペーン)、予防接種費用助成 他
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し図書館へ配置 他

《国際交流推進事業》

- 海外留学助成、留学対策講座助成、留学生による学生等向け語学講座開講支援、国際交流事業助成 他

《教育研究推進事業・その他》

- 共同自主研究への助成、現地学習バス借上助成 他
- 卒業式のガウン貸与、記念品贈呈 他

活き活き元気種

このコーナーでは地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。



第41回NHK全国大学放送コンテストで奨励賞を受賞

映像研究部

代表者 ともなが 富永 朝陽(環境共生学部環境共生学科食健康環境学専攻 3年)
執筆者 かみの 神野 航平(総合管理学部総合管理学科 3年)

限らない表現を映像で

皆さんこんにちは！映像研究部です！私たち映像研究部は2025年7月現在、3年生7名・2年生3名・1年生8名の計18名で活動しています。活動内容はサークル名が示す通り、主に映像制作です。映像の種類は様々で、YouTubeで見られるような企画動画を撮影したり、白垂祭向けに短編映画を撮影したり、さらには外部からの依頼で撮影・映像制作協力も行っています。

私たちは昨年度、「第41回NHK全国大学放送コンテスト(以下「大学Nコン」)」に参加しました！大学Nコンは全国の大学の放送系サークルがテーマに沿った映像を制作し、プロのアナウンサーや作家の方に審査をしていただいて、その完成度を競い合うコンテストです。一昨年も参加をしたものの、一次予選を通過出来ず悔しい結果となりました。しかし昨年は全ての予選を通過し、ついに本戦に出場することが出来ました！本戦は京都市の京都アスニーで行われるということで、制作した映像の代表者と同伴者1名が京都へと向かうこととなりました。

実際に会場に着いたときは緊張が深まったように感じたと思いますが、全国から集まった選りすぐりのサークルが客席に座っており、「この人たちの前で自分の作品を流すのかあ…」とやや不安な気持ちでした。

本戦が開会されると、始めにアナウンス部門から審査が開始されていきましたが、ここで本戦のレベルの高さを実感したことが記憶に残っています。自分がこの場に立っていることに対する不安感と、それと同じくらいの光栄な気持ちが湧き上がりました。腹をくくって、「自分だって全国から選ばれた学生だ」と自覚して審査に臨もうと決心をしたのです。自分の作品の審査中がどんな

感じだったかは正直あまり覚えていません。作品の上映中は舞台裏に控えているからというのもありますが、その後に来るインタビューのことで気が気でなかったことが一番大きかったですね。

大学Nコンではとても貴重な体験をさせていただきました。こんな機会は、大学卒業後にほとんど訪れることは無いでしょう。映像を作るものとして、同年代の優れた人たちを身近に感じられた点もそうですし、人生経験の一種としてきっと今後の糧となることと思います。残り短いサークル活動ですが、これまでの知識・経験を後輩に受け継ぐと共に、悔いの無いように活動していきたいと考えています。



お一冊

誰が音楽をタダにした？—巨大産業をぶっ潰した男たち—

著者: スティーヴン・ウィット、訳者: 関 美和

今日、音楽がサブスクやYouTubeで手軽に楽しめる背景には、金銭欲ではなく承認欲求や自己顕示欲に突き動かされた人々による違法アップロードの存在がありました。

本書は音楽が「タダ」になっていく過程を描きつつ、音響圧縮技術、ネット流通、著作権制度、ビジネスモデルの変容、さらにはネット社会の心理学まで幅広く扱っています。

理系・文系を問わず、デジタル時代の文化と社会を考える好著です。

出版社: 早川書房 出版年: 2016年9月
ISBN9784152096388



総合管理学部
総合管理学科
情報専攻
教授

宮園 博光

熊本県立大学未来基金への御協力に心より御礼申し上げます。

未来基金寄附者御芳名 (2024年度実績)

個人: 6件、法人・団体等: 4件、古本募金: 6件
(※寄附金額別、五十音順、敬称略)

1 個人

30万円 お名前掲載希望なし
10万円 菅野 道廣
※お名前のみ掲載 井本 剛司、宇野 里枝、黒木 誉之
※お名前・金額の掲載を希望されなかった方 1件

2 法人・団体等

200万円 熊本県立大学同窓会紫苑会(令和6年度分として)
30万円 櫻井精技株式会社
12万9千円 オンラインチャリティイベントGiving Campaign

個人寄附者

中沢 桜樹、小林 亮瑛、石渡 輔、岸本 正輝
※お名前掲載を希望されなかった方 8件

パートナー企業

有人宇宙システム株式会社、フェリカネットワークス株式会社、株式会社SHIFT、株式会社アットオフィス、EFエデュケーションファースト、株式会社ギフティ、X Mile株式会社、東京大学協創プラットフォーム開発株式会社、株式会社コトラ、株式会社Sales Marker、STATION Ai株式会社、株式会社Tailor App、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社TOKIUM、株式会社ハッチ・ワーク、株式会社フィルダクト、株式会社フォレストコーポレーション、株式会社GAIWAYA、株式会社LayerX、株式会社トインクス、株式会社TTK、株式会社八十二銀行、宇部工業株式会社、株式会社AdMeI、アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社、

LINEヤフー株式会社
※お名前・金額の掲載を希望されなかった方 1件

3 古本募金(件数のみ記載)

6件

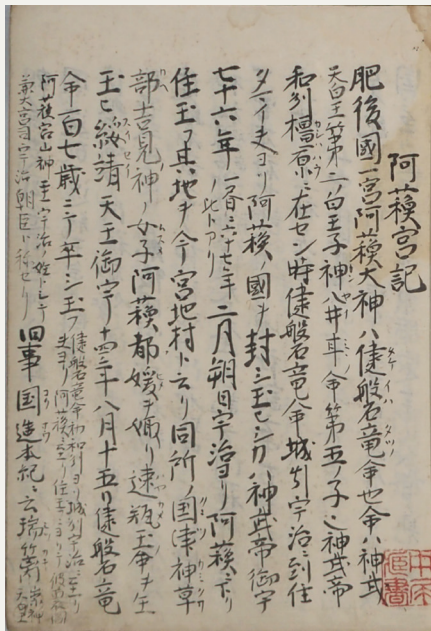
未来基金活用実績 (2024年度実績)

学生支援	同窓会紫苑会奨学金	2,200,000円
海外留学支援	小辻梅子奨学金	550,000円
学生の海外活動の支援		100,000円
サークル等学生団体の支援		96,760円

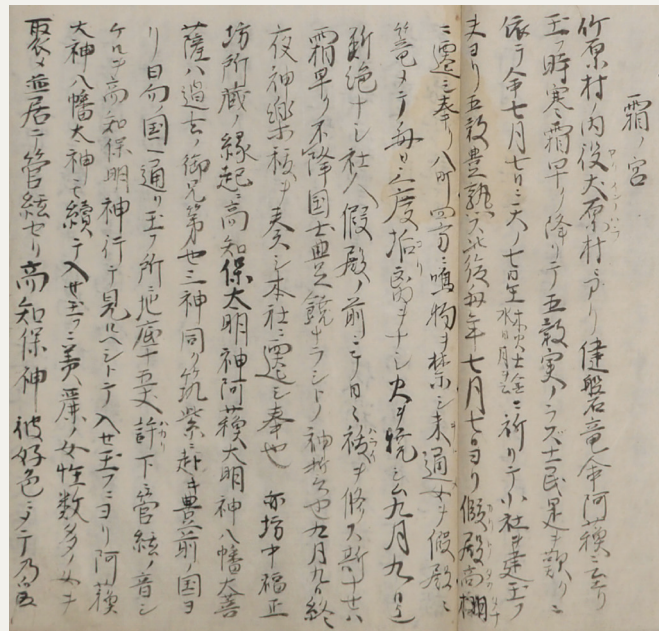
基金創設(2009年9月)以来の寄附金総額は、

160,503,517円となりました。

(※受取利息は含まない。)



巻首



「霜ノ宮」記述部分冒頭

『阿蘇宮記』

寛政元(1789)年写 熊本県立大学文学部 蔵

『阿蘇宮記』は、阿蘇神社を中心とする諸神の沿革を概説した書物で、原著は肥後の和学者井沢幡龍【寛文8(1668)年～享保15(1730)年】によって元禄3(1690)年に編まれている。

『神道大系 神社編50』所収の原著と比較すると、本書は、原著と大半の内容を共有しているが、原著には無い「下野ノ狩」の由来、「阿蘇神主大宮司歴代系図」等が増補されている。その経緯は、増補部分の末にある「右此一冊者、大宮司友隆之書記、或、寺家之縁起旧記、並、井沢之宮記、其外諸家之雜記等、合考編集之者也」の記述から知ることができる。この増補の後にはさらに宝永7(1710)年に阿蘇大宮司より巡見使に差し出されたとする「阿蘇宮覚書之写」が置かれ、本書

はそれら全体を寛政元年に書写したものである。

興味深いのは、原著にも立項される「霜ノ宮」の記述である。原著にあるのは右側の写真の10行目「還シ奉也」まで。同じ行の「亦坊中、福正坊所蔵ノ縁起ニ」以降は、本書の増補で、この「縁起」には、外輪山を踏み裂いて逃亡しようとした「金八(一般には鬼八)」が首を取られたことで、霜雪の災禍をもたらすことになったとの伝説が記される。「縁起」引用の後には「怪談甚疑アリ。執ルニ足ズト雖、彼金八ガ事、多里夫村女ノ茶話スル処ナレバ合テ記之」との所見が記されており、今も語られる鬼八伝説の往時の伝承形態や信憑性に対する評価を私達に教えてくれる。

(文学部 教授 米谷隆史)

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。

いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。

〒862-8502 (住所記載不要)

熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行

FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学

〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号

TEL 096 (383) 2929 (代)

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>